

# 議会たより

No.103  
平成26年4月17日

## 松崎



春らんまん(那賀花畑)

### 《主な内容》

#### 第1回定例会 (3月4日～3月11日)

一般会計当初予算 他	2
町政を問う 一般質問に8議員	8

一般会計

予算総額 35億1千5百万円 防災、まちづくりに重点



平成26年度一般会計予算は、前年度対比△2億800万円、5.6%減の歳入歳出総額35億1,500万円とした。

行財政運営の合理化に努めつつ、防災対策の充実や「日本で最も美しい村」連合への加盟を受けたまちづくりなどを重点とした予算編成となった。

主な新規主要事業は、津波避難タワー整備8,030万円、常盤大橋耐震補強1,800万円、新川橋耐震補強3,800万円、ハザードマップ作成業務委託450万円、日本で最も美しい村づくり1,030万円、奨学金貸付240万円、長時間保育60万円、健康・医療相談110万円など。

歳入

町税前年度比1.1%減

総額6億7千2百万円

問 町民税について、もう少し収入額を見込んで

も良いのではないか。

答 窓口税務課長 平成26年度予算においては、

平成25年度最終補正予算額の2%減で見込み、個人町民税については昨年度当初予算額より500万円ほど増額措置した。固定資産税は土地・家

屋は、ほぼ前年並み、償却資産については8%減とした。新たに資産が増えた分については、補正対応したい。

問 税の徴収率の状況は。

答 窓口税務課長 平成26年度予算における個人町民税の徴収率は97%で

見込んだ。

平成24年度決算における町税全体の徴収率は86

・8%であったが平成25年度は若干のアップが見込まれる。

また、平成25年度では150件ほどの財産調査を行い、支払い能力のある18件について差し押さえを実施した。

問 交付税について前年度より5千万円多く見ているが、まだ見込みが甘いのではないか。

答 総務課長 国は総額16兆1千億円余というところで前年度比1.5%減の状況だが、今までの経過を踏まえた中で増額した。





海洋センター水泳大会

**問** 海洋センタープールが赤字となっているが、将来を見据えた方向性についてどう考えるか。

**答** 教育委員会事務局長 海洋センターについては支出に対して収入が約1-10で推移している。支出については職員の人件費と需用費がほとんどを占めている。夏の温泉口数を減らしたり、暖房施設をガスから灯油に換えたりして、コスト削減に取り組んでいる。今後は健康増進策ともからめ利用客の増を図っていききたい。

歳出

西区に高さ12メートル津波避難タワー建設

**問** グリーンツーリズム推進事業はどう展開していくのか。

**答** 企画観光課長 グリーンツーリズム推進事業は平成8年から始まり、平成22年から振興公社に委託し、町と連携しながら進めている。これまで体験メニュー、学校への誘致活動、モニターツアーなどを実施した。指導者育成の講習会を開催し、携われる方を増やしていきたい。また、体験メニューも数を増やすべく関係者と相談していく。

**問** 新たに導入される農地情報管理システムの内容は。

**答** 産業建設課長 農地法の改正を受け、農地台帳が法定化されるため、新システムを導入する。

農地管理に関する総合システムを構築するもので個人の土地面積、地目などを農地台帳に落とし、地図情報と一体化させる。

**問** 民生費に計上されている奨学金の内容は。

**答** 健康福祉課長 従来の奨学金は、大学等の入学時に10万円、月額5千円を貸し付けるものであったが、今回から入学時に20万円、大学生は月額3万円、高校・短大については月額2万円を奨学金として貸与する内容とした。

**問** 松崎温泉郷散策路改修工事の内容は。

**答** 企画観光課長 味正から関野屋間に街灯が18基設置されているが、設置後20年以上が経過し、

老朽化したため取り換える。工事費の1-2は、県の補助金を活用する。



改修される街灯

**問** 海岸線の松くい虫被害が深刻だが対策は。

**答** 産業建設課長 温暖化による気候の変化も影響していると考えられる。樹幹注入や伐倒などを海岸線については重点的に実施していきたい。古木になるほど抵抗力が弱っ

ていくので範囲が拡大しないよう対策を講じる。

**問** 西区に計画されている避難タワーについて住民の了解は得られているのか。また収容人員はどの程度見込んでいるのか。

**答** 総務課長 一部の方から海に向かって逃げるのかというご意見もあった。場所の選定については、地域にお願いして選んでいただいた経緯がある。タワー上部の面積は約100平方メートルで、1平方メートルあたり2人と見積もり、2000人の収容を見込んだ。中区の一部と西区、海洋センター利用者を想定している。



避難タワーが建設される西区

**問** 老人福祉費に計上されている敬老の日記念品、敬老の日行事委託、敬老祝いの内容は。

**答** 健康福祉課長 記念品は、喜寿(77)、米寿(88)、白寿(99)の対象者に記念品を贈呈する。行事委託は、1人2千円を1700人分と役員への謝礼が含まれる。祝いは、百歳の方に10万円を3人分計上した。

**問** 子ども子育て支援事業計画策定業務の内容は。

**答** 健康福祉課長 将来の町の人口推移などを分析し、今後、将来に向けて、どのような育児支援をしていくべきかなどの方向性を決めるための業務。

**問** 子育て世代臨時特例給付金の内容と対象者は。

**答** 健康福祉課長 各戸に回覧させていただいたが、消費税増に伴い、児童手当をもらっている子ども1人に付き1万円を扶養している方へ給付す

る。町内では、8000人が対象となる見込み。



子育て支援対策は（離乳食講習会）

**問** 幼稚園・共同調理場の設計業務委託が予算化されているが今後の見通しは。

**答** 町長 2月28日開催の教育施設等整備検討委員会に諮問を出した。町の方針を示したので、スムーズに進めていきたい。

**問** 建設に向け、プロポーザルの考えはないか。

**答** 町長 中学校の建て替え時に、プロポーザルを行った経緯もある。一番いい方法を考えていきたい。

※プロポーザルとは複数の業者により目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った業者を選定する方式。価格での比較だけを行う入札に比べ、より質の高い成果が期待できる。



現地を確認する教育施設等整備検討委員

**問** 区から上がってくる工事などの要望事項はどのように処理されているのか。

**答** 産業建設課長 区から要望のあった箇所については、一覧表としてまとめている。小規模な修繕などは修繕費で、他は工事請負費での対応となる。緊急性の高いものについては、補正予算で対応する。複合的な要素からすぐには処理できないものもあるが、生活に支障のないよう対応している。

繕などは修繕費で、他は工事請負費での対応となる。緊急性の高いものについては、補正予算で対応する。複合的な要素からすぐには処理できないものもあるが、生活に支障のないよう対応している。

**問** 牛原山町民の森整備計画業務委託の方向性は。

**答** 企画観光課長 牛原山町民の森は、昭和55年から58年にかけて工事を行い、オープンした。施設の老朽化により撤去した遊具もあるが、総合的な考えの中で、牛原山を再整備して行きたい。



再整備が検討される牛原山町民の森

反対討論

必要不可欠の項目もあり、それに反対するものではないが、消費税増により、生活は圧迫され、先行きが不安なことは明瞭。6本の柱に基づき予算が組まれているが、実際の経済情勢から見るとむなししい物と言え。福祉も暮らしも守るといふ施策をもっと推進すべき。

賛成討論

全体的には小規模の予算かもしれないが、きめ細かい配慮もされている。景気が低迷する中で起爆剤も必要。町長2期目に当たり、今議会に出た意見にも耳を傾けていただき、次の起爆剤に期待する。円滑な事業推進に向け本予算は成立させるべきである。

国民健康保険会計

予算総額12億1千900万円、前年度比7千100万円の減(△5.5%)となった。

**問** 被保険者数と軽減世帯の内訳は。

**答** 健康福祉課長 被保険者数の大幅な変更はない。現年度分で平成25年度は2千704人だったが、平成26年度は2700人、1千541世帯を見込んでいる。

地方税法の改正に伴い、2割および5割軽減世帯の対象が拡大されるため、軽減世帯数は762世帯となり、83世帯の増を見込んでいる。

**問** 高額療養給付費の主な内容は。

**答** 健康福祉課長 がん、脳梗塞、脳出血などが考えられる。医療費全体における支払額を見ると、神経疾患による長期入院、がんセンターや順天堂へ

の支払額が大きい。**問** 特定健診における受診率をどの程度見込んでいるか。

**答** 健康福祉課長 受診率は、53%とした。また、保健師による保健指導実施率は、50%を見込んでいる。



特定健診結果説明会(文化ホール)

**問** 西伊豆町では高校生まで医療費の無料化が行われているがどう考えるか。

**答** 町長 予算規模も違い、中学生以上は考えていない。

水道事業会計

予算は事業収益1億6千751万3千円、事業費用1億6千323万8千円、純利益を329万3千円とした。

**問** 配水量はどのように算出したか。

**答** 生活環境課長 人口の減少もあり平成25年度に最終補正した水量に対して98.7%を見込んだ。

**問** 貸倒引当金の内容は。

**答** 生活環境課長 平成10年度以前の所在不明者分を特別損失として31件、129万4千円、平成10年度以降の所在不明者分を総係費の中で52件、126万4千円計上した。

※貸倒引当金とは

金銭債権に対する将来の取り立て不能見込み額を見積もったもの。

温泉事業会計

供給戸数は自家用321戸、営業用35戸。予算は事業収益を6千991万1千円、事業費用を6千888万3千円、純利益を5万2千円とした。

**問** 温泉の加入促進策についてどう考えるか。

**答** 町長 権利を期間限定にし、加入金もそれに合わせた額にしたらどうかなど、加入促進策を現在検討している。



温泉の有効活用を(花畑足湯)

伊豆まつざき荘会計

宿泊利用率43.8%、宿泊人員2万1千900人を目標とした。予算は事業収益3億3千540万円、事業費用3億3千400万円、純利益24万4千円とした。

**問** 厳しい状況下で売り上げを伸ばすか、経費を削減するかである。現状をどう捉えているか。

**答** 観光施設管理係長 予算編成に当たり過去2年間の執行状況により、経費の削減に努めた。富士山プランなどにより、一般のお客様については、上向き傾向であると分析している。

平成26年度においては、団体客の誘客に向け、営業活動、プランの設定を実施していきたい。また、公社職員についても正規職員を増員し、営業活動に力を入れたい。



一 般 会 計

補正予算第4号は、歳入歳出から9千326万円を減額し、補正後の額を42億4千275万6千円とした。

また、平成25年度末までに事業完了が見込めない8事業について、翌年度へ繰り越すものとした。

**問** ふるさと納税の内訳は。

**答** 企画観光課長 13件で大口は100万円が3件となっている。13人のうち1人が町内、あとは町外者である。今までの総額は、50件で1千421万9千円となり、一般財源化している。

**問** 富貴野山21世紀の森オナーの清算状況は。  
**答** 企画観光課長 21世紀の森については、昭和60年から61年にかけてオナーを募集し、315口、1億5千750万円の基金を作った。

12月現在、未精算分として12人が残っている。

内訳としては、請求書未提出者が6人、契約書未提出者が2人、所在不明者が1人、交渉中の方が3人となっている。

**問** 法人町民税が150万円減額された理由は。

**答** 窓口税務課長 会社組織の再編や解散により対象から8社が減ったことが要因である。

**問** 42億の予算で2億を積立に回している。早い時点で精査し、年度内に執行すべきではないか。

**答** 町長 真摯に受け止めていきたい。

**問** 緑越明許費が8事業で約1億8千500万円あるが、理由は何か。

**答** 総務課長 国の予算編成の都合上、年度末に片寄ったものや発注時期の遅れによるものが要因であり、計画的な発注を徹底して行きたい。

国民健康保険会計

補正予算第2号は、歳入歳出から2千448万9千円を減額し、補正後の額を12億7千251万1千円とした。

**問** 療養給付費が減額となった要因は何か。

**答** 健康福祉課長 内訳を見ると医療費が100万円を超える例が前年度は75件、1億2千300万円であったが、今年度は52件、8千100万円となった。また、医療費が500万円を超える例が前年度は3件あったが、今年度は無かったことが主な要因である。

介護保険会計

補正予算第2号は、歳入歳出から3千315万9千円を減額し、補正後の額を8億2千72万7千円とした。

**問** 要支援、要介護の該当者の内訳は。

**答** 健康福祉課長 12月未現在の介護者総数は538人。内訳として、要支援1が80人、要支援2が74人。

また、要介護1が15人、要介護2が83人、要介護3が58人、要介護4が79人、要介護5が49人となっている。大きな変動は無く、人数から見ると減少傾向である。

水道事業会計

補正予算第1号は電気料金値上げに伴う動力費の増などにより、事業費用を328万3千円の増とした。

**問** 滞納者に対する給水停止の事例は。

**答** 生活環境課長 督促や催告後、5カ月で給水停止の措置を執る。停止の予告通知により、納付する事例も多い。



特定健診（文化ホール）

# 第 1 回 定 例 会 の 賛 否 状 況 一 覧

件 名 / 議 員	藤 井 要	福 本 栄 一 郎	佐 藤 作 行	高 柳 孝 博	土 屋 清 武	関 唯 彦	斉 藤 重	一 瀬 寿 一	鈴 木 源 一 郎
松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町社会教育委員条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岩地漁業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
石部農業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
雲見漁業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
松崎町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町一般会計補正予算（第4号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町介護保険特別会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町水道事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町温泉事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町一般会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度松崎町国民健康保険特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度松崎町後期高齢者医療特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度松崎町介護保険特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町水道事業会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町温泉事業会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町岩地集落排水事業特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町石部集落排水事業特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町雲見集落排水事業特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町道路線の廃止及び変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
訴訟上の和解について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町災害対策本部非常用発電機設置工事請負契約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
固定資産評価審査委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副町長の選任について	無記名投票（賛成：8 反対：1）								

○：賛成 ×：反対

# 町政を問う



藤井 要 議員

**問** 幼稚園の建設場所は

**答** 旧岩科小校庭へ新築

は、現時点では明言できない。聖和保育園からは、建物の老朽化が進んでいるため、現在の場所ではない平地に新築したいとの要望をいただいている。

建て替えに国の基金を利用する場合は、平成27年度中に完成させなければならぬという条件がある。

**問** 幼稚園舎と保育園舎を別に建設するのではなく、なるべく町民の将来に負担をかけない方法が考えられないか。

**答** (町長) 幼稚園は、人数が少なくなっても、町が責任をもってやっていきたい。

**問** 両園舎を建てた場合、統合後の小学校のように廃校舎になることも想定できる。岩科園を中川園に統合すれば園舎をそのまま使えるのではないか。

**答** (町長) 安全な地域で環境に優れた場所に新築で建てた

いという私なりの希望があり、補助金が十分に使える、町の賑わいなどを考えた結果、幼稚園は旧岩科小学校校庭に建設したいと考え、諮問している。

**問** 幼稚園が岩科に建てられた場合、老朽化している聖和保育園を中川に移転する考えは。

**答** (町長) 移転場所などはまだ公表できる段階ではない。なるべく早く建設するために話し合っている。

**問** 副町長の後任は

**答** 県職員を要請した

**問** 西伊豆町では教育長に県職員を起用すると伺っている。当町でも空席となっている副町長に県職員を起用する考えは。

**答** (町長) これからの少子高齢化に向かって、県と町の連携を強化する必要があると考えていた。県とのパイプを太くし、市内に新しい風を吹かせ、町を活性化していきたい。

**問** 今年度の在園者数は、町立幼稚園が46人、聖和保育園が79人になる。少子化により、ますます人口が減ることが想定される中、町長はあくまでも幼稚園と保育園での体制にこだわるのか。

**答** (町長) 幼稚園を早期に統合したいと考え、旧岩科小学校敷地内に建設することを委員会に諮問した。

幼稚園も聖和保育園での話もあるが、50年近

**問** 保育園建設予定地は公表段階ではない

**答** (町長) 幼稚園の建設地を岩科にすることを委員会に諮問しているが、聖和保育園の建設地をどのように考えているのか。

聖和保育園の建設場所



幼稚園の一園化は (岩科園交通安全教室)





やろうじゃ協会による写真展の準備作業（文化ホール）



高柳 孝博 議員

**問** まちづくりと防災対策

**答** 体制の整備で

**問** まちづくりの評価制度は。

**答**（町長）

主要事業は毎月の課長会議で進捗状況の確認、協議をしている。行政評価制度は手法を含めて検討したい。

**問** 県の「ふじのくに観光躍進基本計画」のような「松崎町観光躍進基本計画」が作れないか。

**答**（町長）

そのようなものを新体制の推進委員会の中で作っていくことになる。組織ができて活動状況が明確になれば予算化もできてくる。

**問** 住民参加のまちづくり

**答** 体制の整備をする

**問** 自治体基本条例・まちづくり条例制定で住民参加を推進できないか。

**答**（町長）

基本条例制定には住民の参加と周知徹底により、それに基づいたまちづく

りが必要で、現段階では総合計画で理念を共有し、住民と協働で活動していきたい。

**問** NPO・ボランティアを積極的に活用するための地域戦略会議を作れないか。

**答**（町長）

地域戦略会議のようなものとして、「松崎町まちづくりやろうじゃ協議会」、役場職員からなる「日本で最も美しい村庁内推進会議」、平成26年度に設置の各種団体を網羅した「日本で最も美しい村推進委員会」の3団体が連携して日本で最も美しい村づくりを推進していくことになる。

**問** 防災対策は

**答** 年度内に計画策定

**問** 地震津波の第4次被害想定「松崎版復旧シナリオ」を作れないか。

**答**（町長）

県は有事の際に取るべ

き対応を予測した「被害対応シナリオ」を作成しており、町としては県の被害対応シナリオを参考にして災害時に取るべき対応を予測し、防災・減災体制の整備を進める。

**問** 松崎町版の10年間の防災対策アクションプログラムを作れないか。

**答**（町長）

松崎町版のアクションプログラムを年度内に作成する。

**問** アクション優先度は。

**答**（町長）

地域の意見を参考に事業を進めるが、想定される津波浸水区域内の整備、橋梁の耐震化などによる避難路の確保が当面の優先課題である。

**問** 避難所運営マニュアルの策定と即した訓練を。

**答**（健康福祉課長）

マニュアルは震災前の平成23年に策定したが、今、精査・調整中である。

**問** ノロウイルス対策は

**答** 万全を期している



佐藤 作行 議員

作業中、作業後の施設設備、食品の取扱、服装等の点検を行って、安全な給食の提供に努めている。

**問** 観光施設における対策は。

**答** (町長)

食中毒防止講習会への参加を通じ、知識の習得や情報の共有を図り、ノロウイルスに限らず、食中毒を起さないよう、万全を期している。

**問** 空き家・農地バンクは

**答** 物件登録をお願い

**問** 空き家、農地バンクの現状と展望は。

**答** (町長)

空き家情報バンク制度は、昨年6月から開始し、区長会や回覧、広報、ホームページで物件情報の登録をお願いしている。

現在、空き家情報バンクの情報提供を受けたという方の登録は3人いるが、肝心の物件登録がないので、3月の広報で、

再度、物件登録をお願いしている。

なお、農地バンク制度については、平成22年8月から農地貸借等の情報をホームページで公開している。

**問** 桜葉日本一の維持は

**答** 安定栽培を支援

**問** 桜葉生産日本一を維持するための支援、消費拡大への方策は。

**答** (町長)

桜葉は松崎を代表する作物であり、すでに6次産業化もされている。

安定的に生産できるようにするためには、個人農家での栽培形態から大規模化、集約化することが必要である。

既存制度や今後始まる新たな制度を使いながら、桜葉を含んだ特産品の安定栽培を支援していきたいと考えている。



桜葉の漬け込み作業 (小泉商店)

**問** 学校給食を扱う共同調理場の対策は。

**答** (町長) 学校給食を取り扱っている共同調理場をはじめ、振興公社に管理委託している伊豆まつぎ荘、道の駅花の三聖苑、重文岩科学校開化亭、明治商家中瀬邸などである。

**答** (町長)

共同調理場は、子どもの給食を作っているので、調理従事者は、食中毒は絶対出さないという強い気持ちで衛生管理に非常に神経を使っている。具体的には、学校給食衛生管理基準に基づき、健康観察記録票で、調理従事者本人および家族の毎日の健康状態をチェックしている。また、普段から衛生管理者の指示により、徹底して作業前、





災害復旧工事の早期着手を（町道星山線）



鈴木 源一郎 議員

## 問

県単位化で税負担は増

## 答

弱小市町村には有利

**問** 「消費税の値上げ分を全て社会保障に充てる」などと安倍内閣は言いながら、社会保障の全分野にわたる大改悪を進めている。

国保の都道府県単位化もその一つで、市町村が一般会計から国保会計へ支出している繰入金を無くし、国保税だけで賄わせる狙いがあるのではないか。

**答**（町長）

加入者の高齢化と医療水準の上昇による保険給付費が増加している一方、納税者の所得が低く、保険税が減少していることが、現在の国保制度の問題点である。

一般会計から繰り入れを行い、保険税の上昇を抑えているが、県単位化することによって、市町が単独で繰入する必要がなくなり、財政的に安定する効果が期待できる。

国保は、国全体で赤字の状態であり、制度の改正は必要だと考える。

**問** 国は、全国の市町村への国庫支出金を毎年減額し、かつては国保総収入の50%を超えていたが、現在では、わずか25%になっている。その結果、

国保税は毎年上昇し続けている。国保税は、現在でも非常に高額で、滞納者が続出している。県単位化は、その高額な国保税がさらに耐え難い高水準になるのではないか。

**答**（町長）

町長は、保険者の立場ではなく、加入者である被保険者の立場で国保の県単位化に反対すべきではないか。

**答**（町長）

低所得の加入者に対し、国保税の2割、5割、7割軽減の対象者を拡大することが決まっている。統合により事務費の軽減や当町のように一人当たりの医療費が高い町は恩恵を受けることになる。

## 問

町長の決断がカギ

## 答

遠からず結論示す

## 問

町道星山線崩落災害は、発生から2年がたつが、現場は何の手も打たれていない。町の責任は重大である。工事費の分担率が決まらないため、未着手になっているなどということは、あってはならないことではないか。

**答**（町長）

早期解決を目指して交渉を続けてきたが、被災者に同意していただけないで苦しんでいる。

**問** この災害の復旧工事は、町が責任を持ってやらなければならない。問題となっていない負担率について、議会から町長に提案し、町長が従うことは本末転倒である。最後は町長の決断がカギを握っているのではないか。

**答**（町長）

議会の皆さんが賛成できる提案をするため、内部で話し合っている。

### 問 住民の健康管理は

### 答 考えながら進める



関 唯彦 議員

**問** 町長は、住民の健康をどのように考えているか。

**答** (町長)

65歳から元気で自立して暮らせる期間を算出した市町別「お達者度」では、松崎町は男性が32位、女性23位と非常に低い。高齢者の方に、死ぬまで元気でいてもらいたい。

**問** データの分析をどのようにしているか。  
**答** (健康福祉課長)

改善委員制度もあり、30年ぐらい続けて健康日本一になっている。

松崎町も日本一の健康の町を目指すべきでは。

**答** (町長)

そのとおりだと思う。ただ、松崎町がどういうことをやったら一番効果があるか話し合っていないかなければならない。

**問** 公社の組織改革は

**答** 相談している

**問** 振興公社の組織改革についての考えは。

**答** (町長)

振興公社に対し、町の意志を反映するため、町長が関わることは必要と認識している。

昨年4月から企画観光課に専任で観光施設管理係長を置き、私の考えを伝え、公社との連携を密にし、事業を進めている。

**問** 管理係長を置くだけで目的が達成できるのか。

**答** (町長)

公社がうまく動くために相談している。

**問** 観光に特化した人や専門の方が理事長や役員に就く必要があるのでは。

**答** (町長)

今のままではいけないし、それなりのことをやっていきたい。

**問** 大潮の浸水対策は

**答** 調査研究をする

**問** 温暖化による浸水を

どう考えているか。また、その対策は。

**答** (町長)

港や低地における大潮の際の冠水などが、近年特に目立つようになってきている。

このことは、災害の危険性を高めるものと危惧している。

対策としては、排水口へのフラップゲートの設置など、ハード対策の調査研究をしていく。



高潮による浸水対策は (三省社横)





6次産業化へ向け、開発品の試食会（商工会館）



土屋 清武 議員

## 問 2期目のまちづくりは

## 答 地域経済の活性化を

**問** 町長2期目のまちづくりとして、「全町まるごとふるさと自然体験学校」のさらなる推進を図り、町民が先生となり、

体験を通じて対価を得ることを掲げているが、具体的な施策は。

**答**（町長）

体験型観光を推進してきたが、今後も、積極的に展開していく。

しかし、まだまだ体験メニューや指導者が十分ではないので、新メニューの発掘や指導者研修を行い、都市住民に松崎らしい体験を提供したい。

**問** 体験型観光の具体例

は。

**答**（町長）

岩地地区での地引網や釣り、カヌー、干物づくり、石部の棚田オーナー制度がある。また、個別の体験では、振興公社で実施している光る泥団子作り、鮎のつかみどり、民間で実施しているぶどう狩りやスキューバダイ

ビングなどがある。

**問** 体験メニューは、海岸地域が主となっている。

岩科、中川地域のメニューの発掘と宣伝方法は。

**答**（企画観光課長）

振興公社で発行している「温泉郷だより」で紹介しているが、メニューの数が少ないため、これから、農業、漁業、林業関係のメニューを増やしていきたい。

**問** 農林水産物の6次産業化は。

**答**（町長）

農業振興会後継者育成部会が、レモンガラスティーや入浴剤を、商工会では、ヨモギを使った加工品を、また、町民有志の会では、桑の葉を使った加工品を開発し、昨年、それぞれの試食会が行われた。

今後は、それぞれが、商品化を目指していくと思われるので、状況を見ながら対応していく。

**問** 少子高齢化対策、子育て支援には、雇用の場の確保が必要と考える。

南伊豆町で雇用対策として東京都杉並区の介護施設を設置する話があるが、その後の状況は。

**答**（町長）

当初、法律の壁があり、難航するものと思われたが、杉並区、南伊豆町および県の努力が実を結び、調整に入ったと聞いている。前例が無く、介護制度に大きく影響するデリケートな面があるので、静観している。

**問** 町長の考えや施策が町民に伝わっていない。

まちづくりに対する広報は、地域に向き、説明するべきでは。

**答**（町長）

これまで、町の広報誌や区長会などで説明してきたが、今後は、町政懇談会を設けることなどを含め、手法を検討する必要があると考えている。

問 星山線の早期解決を

答 同意を得て着工したい



斉藤 重議員

**問** 当局は、テラセル工法は狭い場所でも施工可能で水抜きにも優れているため、採択していると聞いている。しかし、被災者には、テラセル工法では同意が得られていないので、専門業者に依頼して別の工法を検討しているとのことだったが、その後の進展は。

**答** (町長) 作業箇所と住宅の間が狭く、背後地も急峻であるため、技術者の専門的

知見からテラセル工法を選択したが、被災者の同意が得られず、別の工法も検討しているが、経費が増加したり、狭い場所での施工が困難であったりするため、現在、代替案も決定していない。

**問** 被災箇所の町道側面に沿って、43戸の土砂防護柵が県農林事務所補助事業で設置されている。被災者は、大雨の時は、家の背戸を大量の水が流

れると強調しているが、調査では、防護柵の範囲からの水の流出は無いという結果である。

まずは、崩落部分の土砂を取り除き、水がどこから流れてきているのかを確認し、工法を考えるべきでは。

**答** (産業建設課長) 現場が狭く、土砂の取り除きが困難なため、復旧工事と同時に施工しなければならず、工法の決定を待っている状況である。工法などが決定すれば、早急に着工できると考え、被災者と交渉中である。

**問** わずか10戸程度の町道とのり面の復旧工事には2〜3千万円を費やすことは疑問である。無駄な出費を避けるため、現場の地形を熟知している地元業者と工法を選定し、無駄な工法を省き、必要最低限の工事で経費削減を図るべきでは。



テラセル工法施工例

**答** (産業建設課長) 現在の工事費は、概算(見積もり)金額であり、着工する場合は、強度を確保した中で、経費削減を考えていく。

**問** 災害発生当初から交渉が難航し、地元ということもあり、さまざまな努力もしてきたが、現在のようない結果になっていることは、非常に残念である。また、何もしていないという批判も多くあ

る。町長は、2期目の公約で力強く、安心安全なまちづくりを宣言した。早期解決は責務である。町長の権限で決断し、議会に諮る考えは。

**答** (町長) 最終的に負担額を決定するためには、議決が必要になる。さまざまな検討を重ね、安全性を確保した工法を決定し、できるだけ早い時期に議会に提出したいと考えている。





初めて実施された夜間津波避難訓練（江奈地区）



福本 栄一郎 議員

**問** 幼稚園一園化の建設地は

**答** 候補地は旧岩科小学校

**問** 幼稚園・学校給食共同調理場は、平成26年度に設計、平成27年度に建設が予定されているが、施設の規模、場所などは決定しているのか。

**答**（町長）

幼稚園は、旧岩科小学校、共同調理場は、伏倉の町営住宅跡地を候補地として、教育施設等整備検討委員会に諮問した。施設の規模は、それぞれ500.0mを見込んでい

**問** 幼稚園の建設は、在園および入園予定の保護者を対象としたアンケートを実施すべきでは。

**答**（町長）

アンケートの実施は、現在のところ考えていない。

**問** 認定こども園設立は

**答** 幼・保別々に設置

**問** 平成27年度に私立聖和保育園の建て替えが計画されているが、将来的

に子どもが限りなく減少する中、幼稚園・保育園の両方の機能を持つ認定こども園設立の考えは。

**答**（町長）

今の時点では、従来どおり別々に設置し、子どもが激減した時点で検討することが適当だと思う。

**問** 聖和保育園は、どのように考えているのか。

**答**（町長）

聖和保育園側は、安全な平地への移転と建設援助を申し出ている。

町から要請があれば、認定こども園として運営することも考えているようだが、今後も適切に運営できるといふ保障はないので、町としては同意するつもりはない。

**問** 避難路の整備促進は

**答** 補助制度の見直しを

**問** 地震・津波などの災害に対応する避難路上には、ブロック塀などがあ

る。特に夜間では、パニック状態になり、未曾有の被害が想定される。避難路整備の進捗状況と対策は。

**答**（町長）

平成25年度は、中区と道部を町で、三浦地区は自主防災会で実施した。

避難者が多い松崎地区は、高台が無く、津波避難ビルまでの避難路確保が重要となる。

ブロック塀などの改修補助や住宅の耐震化補助を実施し、避難路確保を目指しているが、利用者が少なく、今後は補助制度の見直しを検討するとともに、広報による利用促進を図っていく。

**問** 独居高齢者世帯が増加する中、災害弱者の避難支援策は。

**答**（町長）

要介護支援システムの整備に向けて情報整理を進めている。災害弱者対応の防災訓練も必要と考

## 議会のうごき

### 1月

- 20日 静岡県地方議会議長連絡協議会政策研修会（静岡市）
- 23日 広報編集委員会
- 28日 賀茂郡議長会（西伊豆町）
- 31日 広報編集委員会

### 2月

- 6日 議会全員協議会
- 18日 静岡県町村議会議長会総会・議長会議（静岡市）
- 18日 下田メディカルセンター組合議会
- 20日 下田地区消防組合議会
- 26日 議会運営委員会  
広報編集委員会
- 28日 議員会勉強会

### 3月

- 4日～11日 第1回定例会
- 19日 西豆衛生プラント組合議会
- 27日 広報編集委員会
- 28日 議員会視察研修（南伊豆町）



写真中央が岩谷さん（建久寺花壇）

この人に  
聞きました①  
花の会会長 岩谷代さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーを新設しました。初回は、花の会の会長、岩谷さんにお話しを伺いました。

活動内容を教えてください。

花の会では、毎月1回、町内の花壇などの手入れを行ってまいります。その他に、有志を募り、月3回、5の付く日に三聖苑の花壇の手入れを行ってまいります。シルバーの活動と勘違いされる方もいますが、まったくのボランティアです。

長続きの秘訣は何ですか。信頼関係で活動し、強制しないことだと思います。

困っていることはありませんか。

会員の高齢化です。新しい力が入ってこないのが悩みの種です。若い人たちの加入をお待ちしています。

楽しみは何ですか。

作業中のお茶の時間のおしゃべりや、自分たちが手入れをしている花壇

の花の咲き具合を見るのが楽しみです。来年は、どんな花を植えようかなどアイデアを巡らせています。

議会への要望はありますか。

傍聴にも足を運びますが、一つのことを深く追求してほしいと願っています。みんなでこういう町にしたいというイメージを持って進んでいくことが大切だと思います。（聞き手 編集委員長）

#### 発行責任者

議長 稲葉昭宏

#### 編集委員長

藤井 要

#### 編集委員

土屋清武  
鈴木源一郎  
一瀬寿一  
齊藤重  
高柳孝博

## 海鳴り

今定例会は、平成26年度の予算審議が中心となり、議会にとっても正念場であった。

予算審議では、税金を納める側の血と汗は果たして執行者側に届いているのだろうか、町政の中心にいる町長は、納税者である住民の皆さんの思いを肝に銘じ、予算編成に臨んだのかという姿勢が焦点となった。

町内の経済が、依然として厳しい状況が続いている中、当局は緊張感を持たず、随所に従来通りの手法で計上された予算が見受けられたため、大きな危機感を抱き、活発な質疑を行った。

今後、職員の意識改革に期待するとともに、議会としても、持てる機能を十二分に発揮し、行政の総点検に取り組みべく、各議員の能力向上を図らなければと改めて感じた。（議長）